

- (7) 各級黨部は國民精神總動員綱領、實施辦法及國民公約を大量印刷して各方面に配布すること
- (8) 各地新聞紙、刊行物は國民精神總動員綱領に準據せる記事に掲載して特別號を發行し並に特に宣傳事項を登載すること
- (9) 本宣傳週間の宣傳は城市宣傳と鄉村宣傳の兩項に分けて處理すること

極秘

内閣情報部三・二八

情報第四號ノ二

重慶日本語放送（二十四日）

（東京都市遞信局聴取）

一、上海ルーター二十四日發

午前十一時日本郵船會社倉庫より發火し遂に燒失した、向側の日本領事館も僅か燒けた、損害は棉花の百余萬圓と云はれ、反戦分子の行爲と見られ各方面から注目されて居る。

二、倫敦二十四日發

……日本は既に失敗したと論じて居る、日本は武力を以て中國を征服せんとし獨伊も脅威を感じ現在の處……不明……軍事同盟締結を天皇に進言し奉つた處天皇は元老に意見を求められ結局之を許されなかつた相である。日本軍閥は中國の抗戦に依り國力を殆んど盡して了つた、失敗は當然であると論じて居る。

三、今日は日本の皆様にバクヨオで日本兵士の死體から發見した手紙を放送しやう、如何に日本軍が厭戦し軍閥の掃蕩壓迫に抗して居るか、解る。

うらかな三月に成りました、御一同様御變りありませんか、下つて小生も負傷はしましたが文通出來ますことは皆様の御蔭と感謝して居ります、武漢陷落のニュースは市民を狂喜させ旗行列提灯行列が行はれた相ですが之に對し小生は感慨無量でペンを執て真相を知

らせざるを得ません、内地では陥落で有頂天になつて居るが三千萬以上の兵士が戦死したことを知つて居るであらうか、軍閥に強制的に引張り出され血と肉を以て贖つたことを知つて居るであらうか、小生は上海、徐州、九江、武漢の戦争に参加したが最後には護國の英靈と成つて靖國神社で皆様に御眼に掛るのかと思ふと物悲しくなる。

小生は中國は實に不思議な國だと思つた、悠々たる長江が流れ廣大なる森林原野が横はつて居るこの長江の兩岸は血と肉に飾られ、森林には腐つた肉があり、原野には幽霊が徘徊して居る、之を思ふと悲しく淋しく成て一日も早くこゝを逃出度い氣持に成る徐州戦では日本飛行機が支那軍を殲滅し平和が實現する様に見て居たが空爆は徒に支那國民を激昂させ抗戦闘志を固めたに過ぎぬ、日本軍は包圍され増援部隊が來なかつたならば危い所であつた、徐州の東門から入城した時小生は熟々と考へざるを得ませんでした、殺人魔日本軍閥は更に九江に軍を進めた、奥地に入れば入る程危険であることは解つて居るのに、小生は厭でならなかつたが殺人魔軍閥に抵抗することは出來なかつたのです、幸か不幸か小生は瘡に罹り病院入りをして九江戦には参加しなかつたがそれでも數千の兄弟が戦死した、九江が落ちるや日本軍は二隊に分れて前進し小生も病氣が治り参加しましたが一隊は武漢に一隊は長沙に向つたが闘志は既になくなり、此處でも多數の人が戦場の聲が消えた、猛攻撃に拘らずマザン谷は落ちず支那前面陣地は搖ぎもしなかつた、軍閥は遂に毒ガスを使

ひ出した。これは寧ろある勝利とは云へない、これを非人道の勝利である、小生は軍閥の暴行に憤慨せざるを得なかつた、武昌武漢の戦闘は非常な困難に逢ひ或時は人身で作つた橋を渡り血の海死體を踏み越えて行つた、武漢に迫つたには迫つたが支那軍が計画的に撤退したので大犠牲は無駄に成つた、

上海、杭州、徐州、南京、九江、武漢と次々に轉戦して行つたが毎日八貫目の荷物を負て行軍し碌々飯も食はずに遊樂に襲はれるその苦しさは全く筆紙につくし難く、中國は到底征服出來ぬ國と覺つた、中國兵の闘志は愈堅くなりつつある、日本軍閥は總崩れの苦境に陥つて居る、日本軍閥を國民は一致して倒さなければならぬ、……以上で手紙の文は切れて居るが可哀想に此の文を認めた兵士も戦死したのである。

216

内閣情報部三・二八

情報第五號

漁業交渉解決せん

同明來電一不發表

ロンドン廿七日發

懸案の日ソ漁業交渉が數次に亘る東郷・リトヴィノフ會談によつて事實上解決點に達したことに對しロンドンの外交界方面では、漁業問題の解決で極東の事態が安定するに至つたから今後ソヴェト聯邦は歐洲に全力を注ぐことが可能となり、従つて歐洲方面に對するソヴェト外交は強化されること、ならうと観測してゐる。ソヴェト側がポーツマス條約に基づき日本に漁業利権を與へる舊協定の更新を拒否したことに對し日本は來る四月の漁期には軍艦の護衛下に自由出漁を斷行するのではないかと一時は極めて憂慮されてゐたが、今回日ソ兩國が互譲によつて問題の解決を圖つたことは兩國共に現在の狀態下にあつてはあらゆる紛争の圓滿解決を齎してゐることを明らかに示すものであるとしてゐる。